

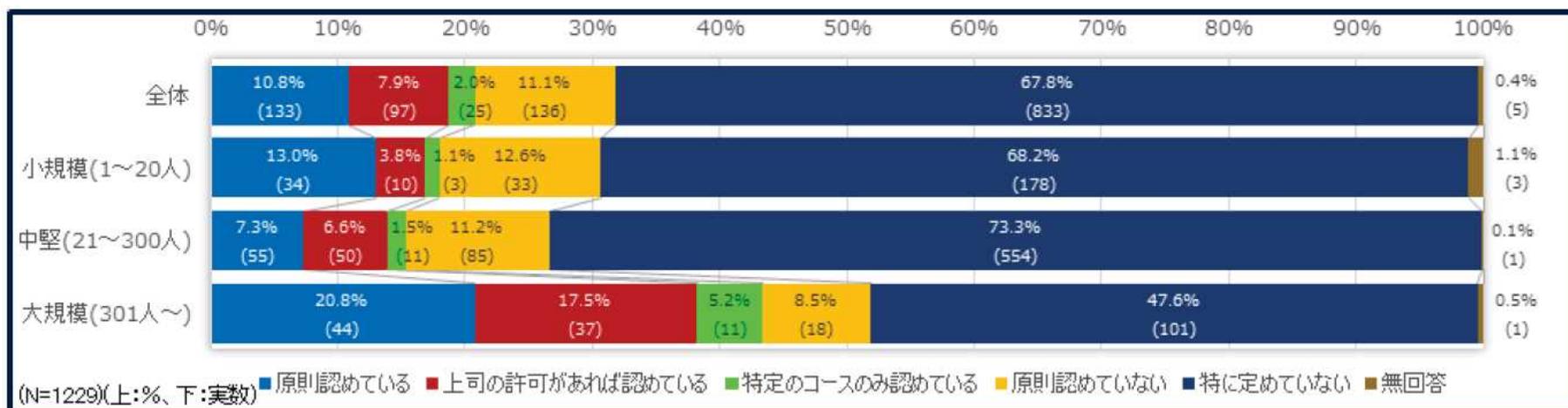
社会人の学び直しに関する課題等について

1. 企業等の認識

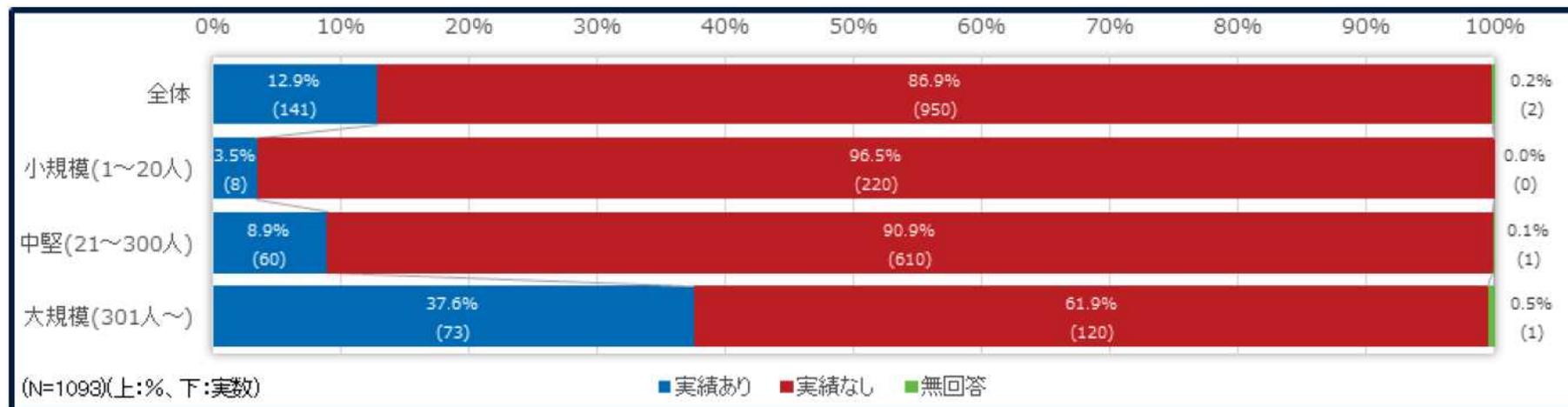
従事者が大学等で学ぶことの許可条件・実績

- 従事者が大学等で学ぶことの許可条件については、全体としては「定めていない」が多い。小規模や中堅では、許可していない割合が1割を超えており、許可している割合も低い。大規模では、許可している割合が比較的高い。
- 従事者が大学等で学んでいる実績については、小規模、中堅では実績がある企業は少なく、大規模でも4割弱となっている。

【従業者が大学等で学ぶことの許可状況】



【過去5年間で従業者を大学等へ送り出した実績】



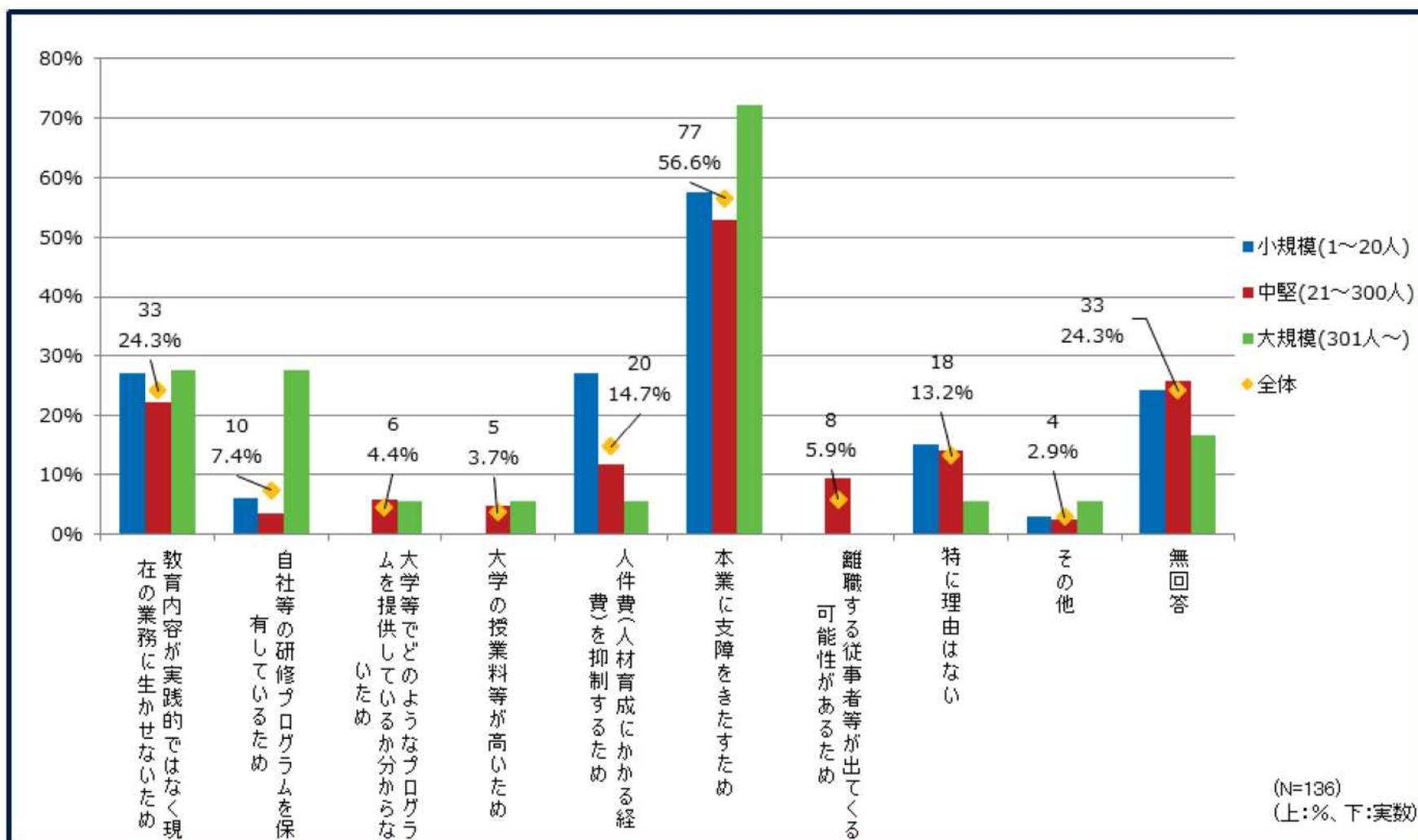
出典: 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究

(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)

大学等での就学を認めないとする理由

○「従事者が大学等で学ぶことを原則認めていない」とする主な理由としては、「本業に支障をきたすため」とする回答が半数を超え、次いで「教育内容が実践的ではなく現在の業務に生かせないため」があげられている。

【従事者が大学等で学ぶことを原則として認めていないとする主な理由(3つまで選択)】



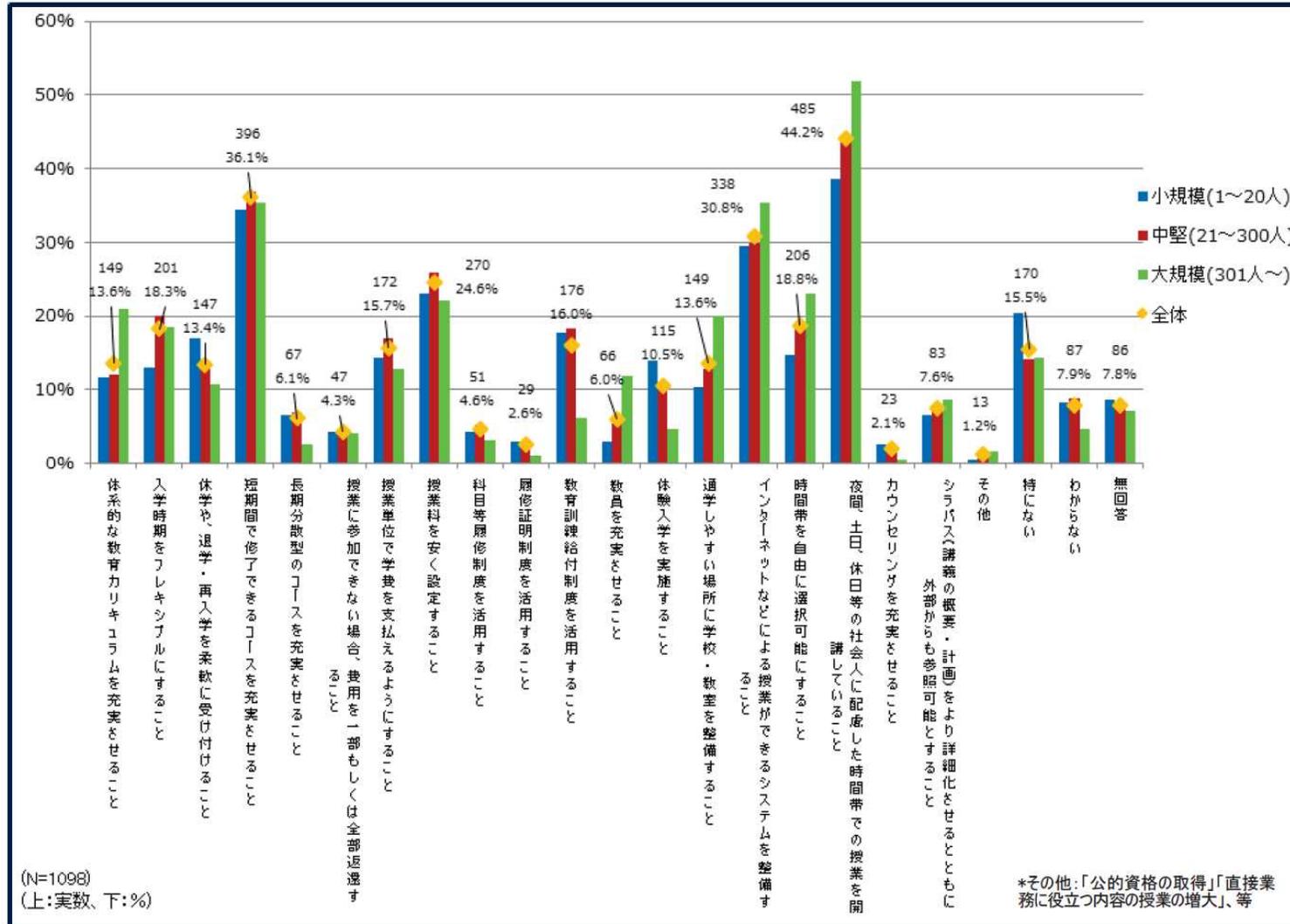
出典: 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究

(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的・大学改革推進委託事業>)

大学等に教育環境面で実施してほしい内容

○教育環境として、「夜間、土日、休日等の社会人に配慮した時間帯での授業を開講していること」の割合が最も高く、次いで「短期間で終了できるコースを充実させること」、「インターネットなどによる授業ができるシステムを整備すること」に対する関心が高い。

【今後、大学等に教育環境面で特に実施してほしいこと】

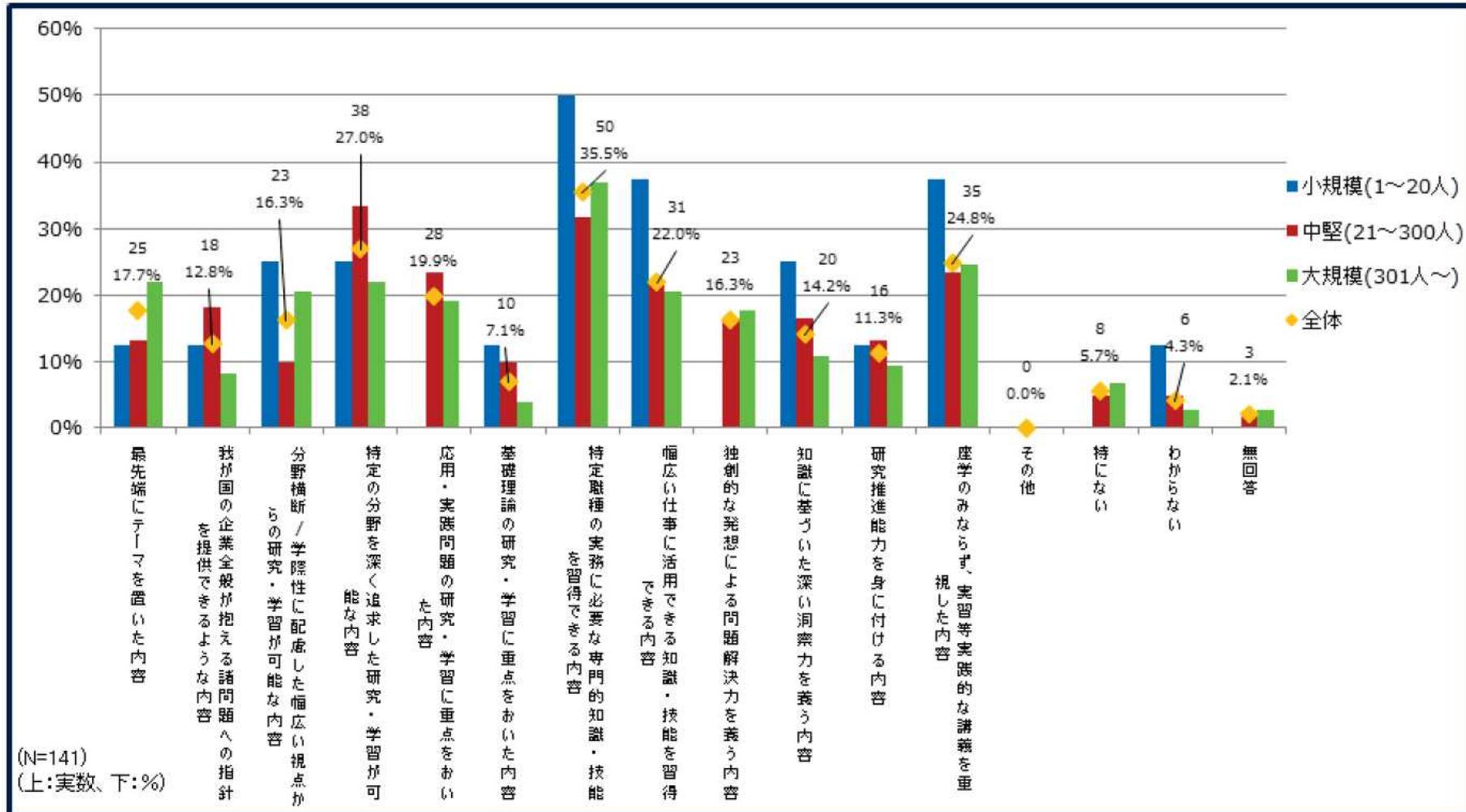


出典: 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究
(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)

大学等に重視してほしいカリキュラム

○大学等に重視して欲しいカリキュラムについて、「特定職種の実務に必要な専門的知識・技能を修得できる内容」や「特定分野を深く追求した研究・学修が可能な内容」をあげている割合が高い。

【大学等に重視してほしいカリキュラム(3つまで選択)】



2. 社会人等の認識

学び直しに関する国民の意識（学びやすくするための取組）

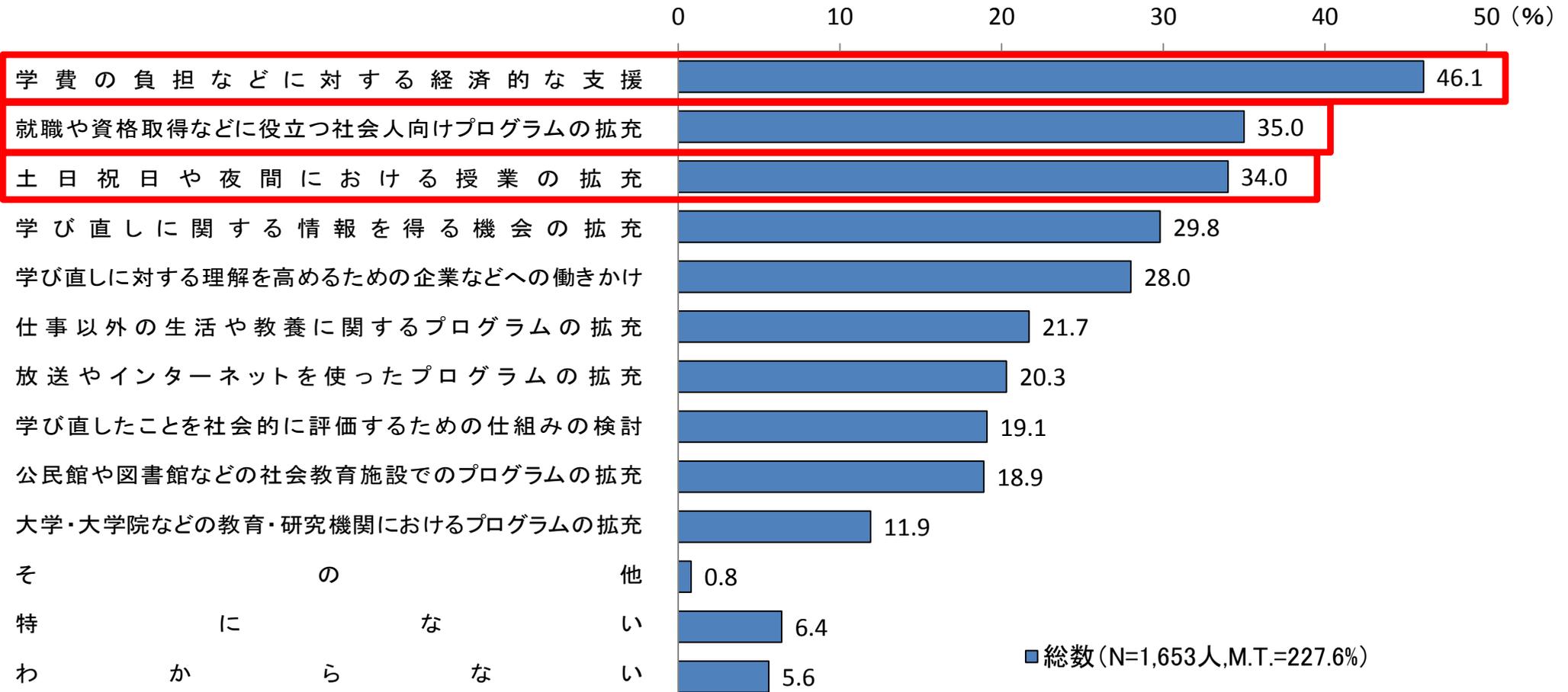
社会人が大学などの教育機関で学びやすくするために必要な取組としては、

- ①学費の負担などに対する経済的な支援(46.1%)
- ②就職や資格取得などに役立つ社会人向けプログラムの拡充(35.0%)
- ③土日祝日や夜間における授業の拡充(34.0%)

が上位。

○学びやすくするための取組

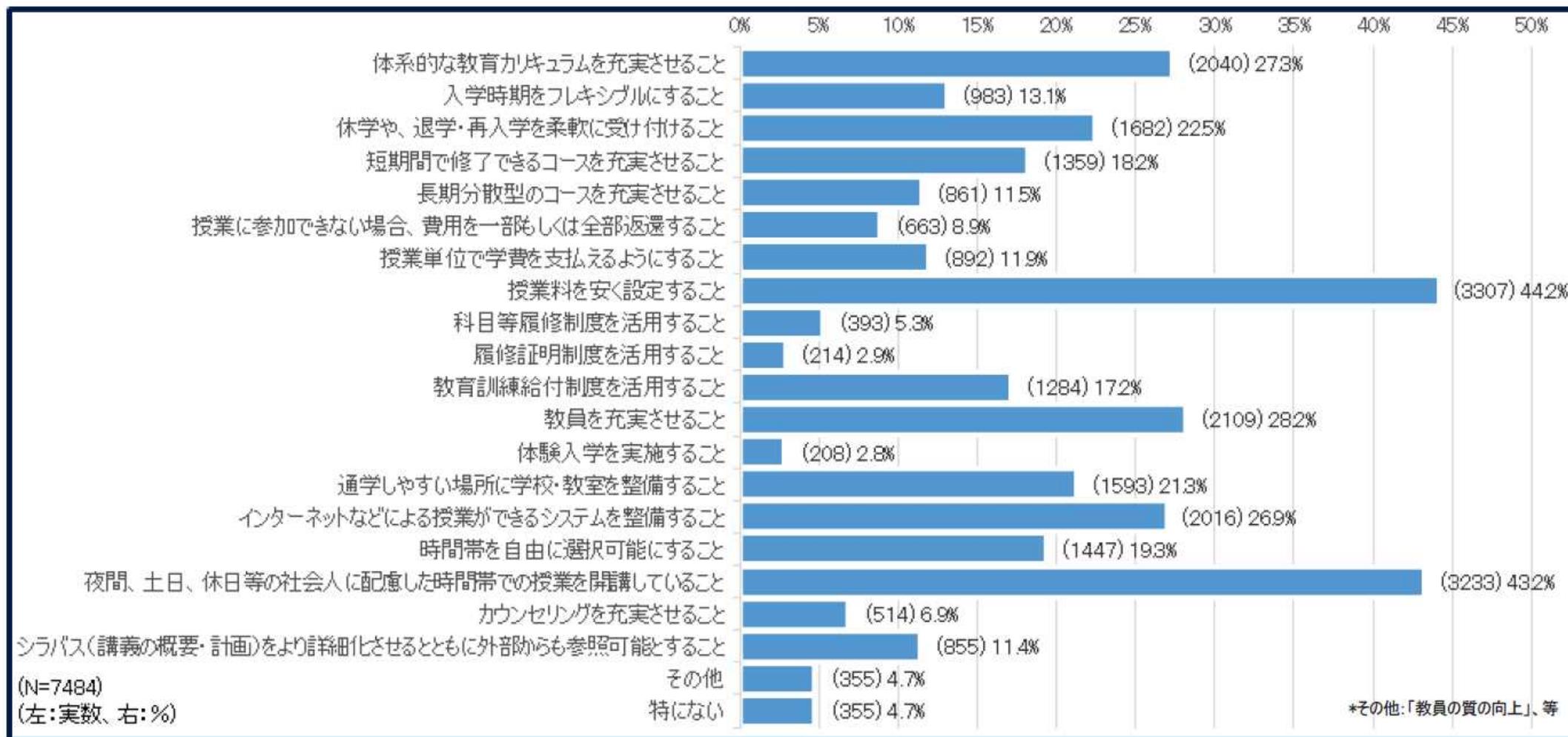
問 あなたは、社会人が大学などの教育機関で学びやすくするためには、どのような取組が必要だと思いますか。
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)



社会人学生が大学等に期待する教育環境

○社会人学生が大学等に期待する教育環境としては、「授業料を安く設定する」、「夜間、土日、休日等の社会人に配慮した時間帯での授業を開講していること」をあげる割合が高い。

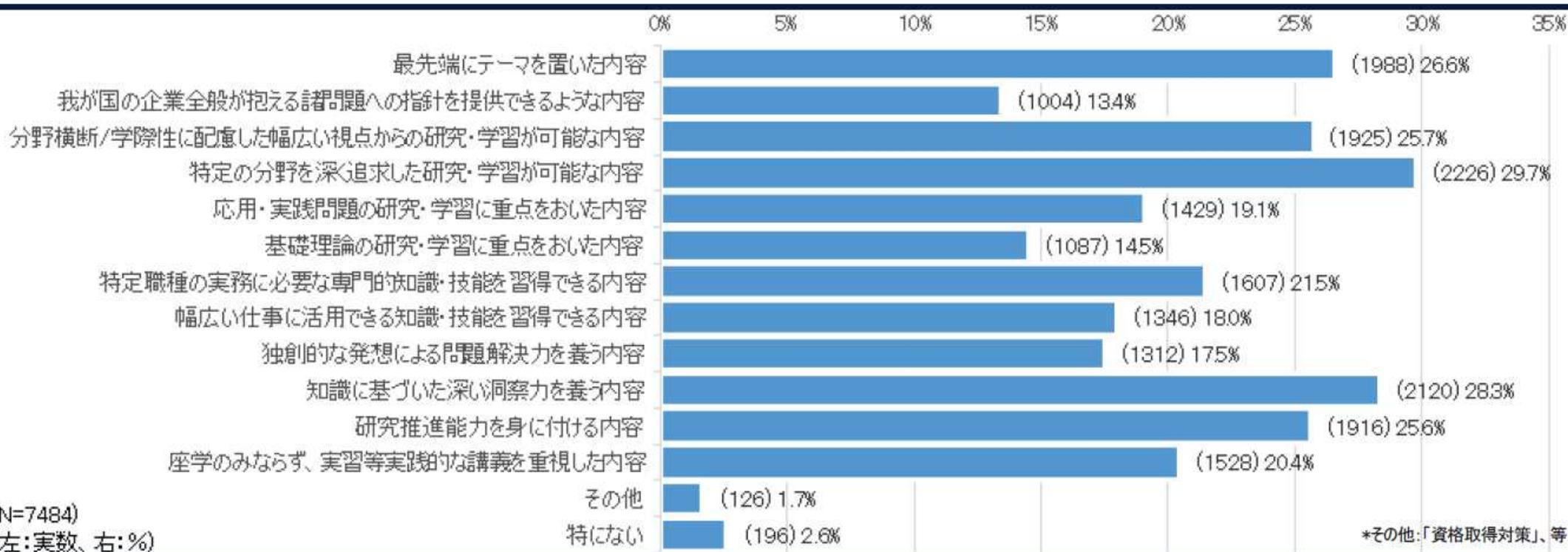
【大学等に期待する教育環境(3つまで選択)】



社会人学生が大学等に期待するカリキュラム

○大学等に期待されるカリキュラムとしては、「特定の分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」、「知識に基づいた深い洞察力を養う内容」などが比較的割合が高いが、社会人が大学等に期待するカリキュラムは分散している。

【大学等に期待されるカリキュラム(3つまで選択)】



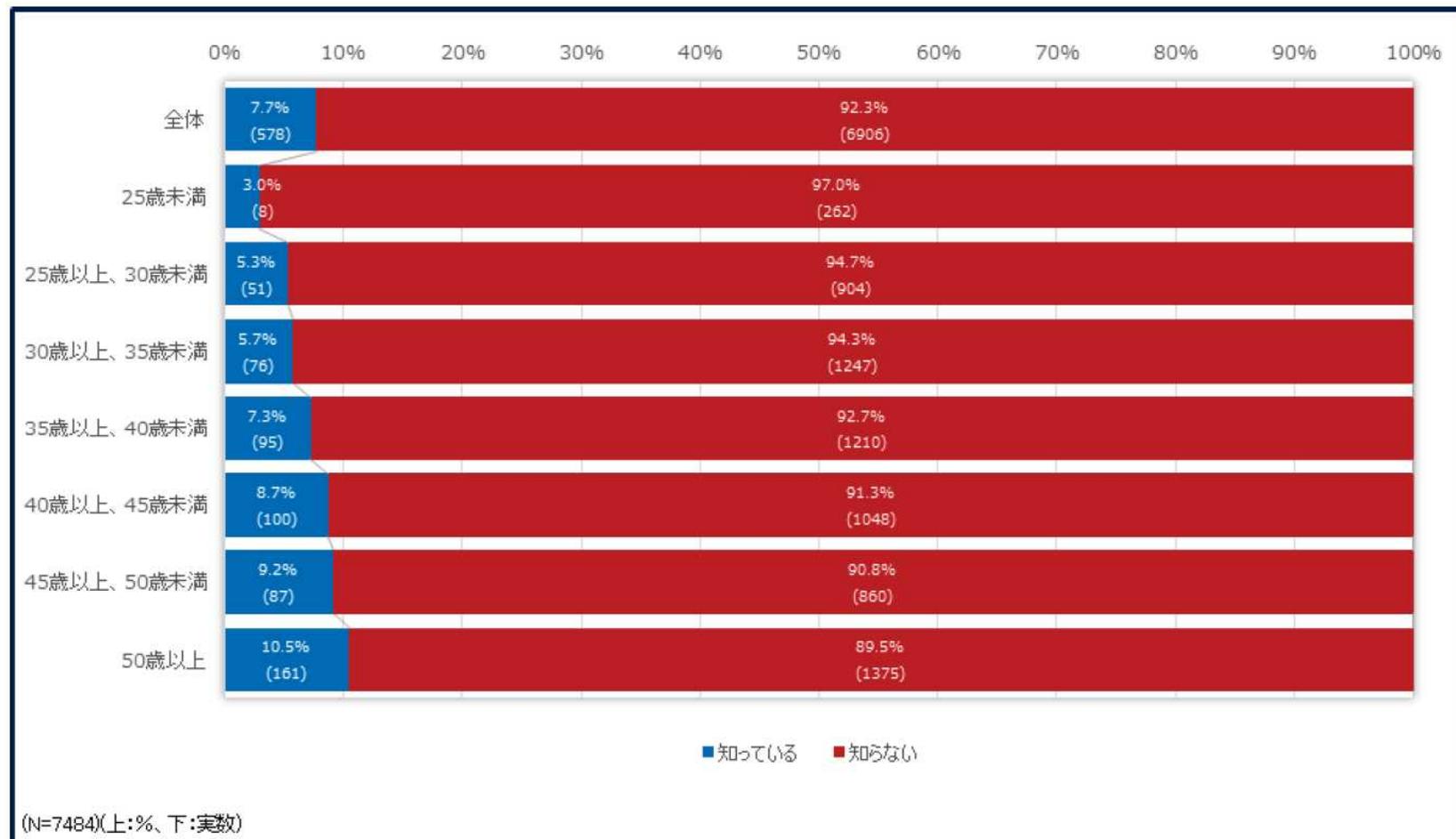
出典:社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究

(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的の大学改革推進委託事業>)

社会人学生の「職業実践力育成プログラム（BP）」認定制度の認知状況

○全体として、「職業実践力育成プログラム（BP）」の認知度は低い。

【「職業実践力育成プログラム（BP）」認定制度の認知状況】



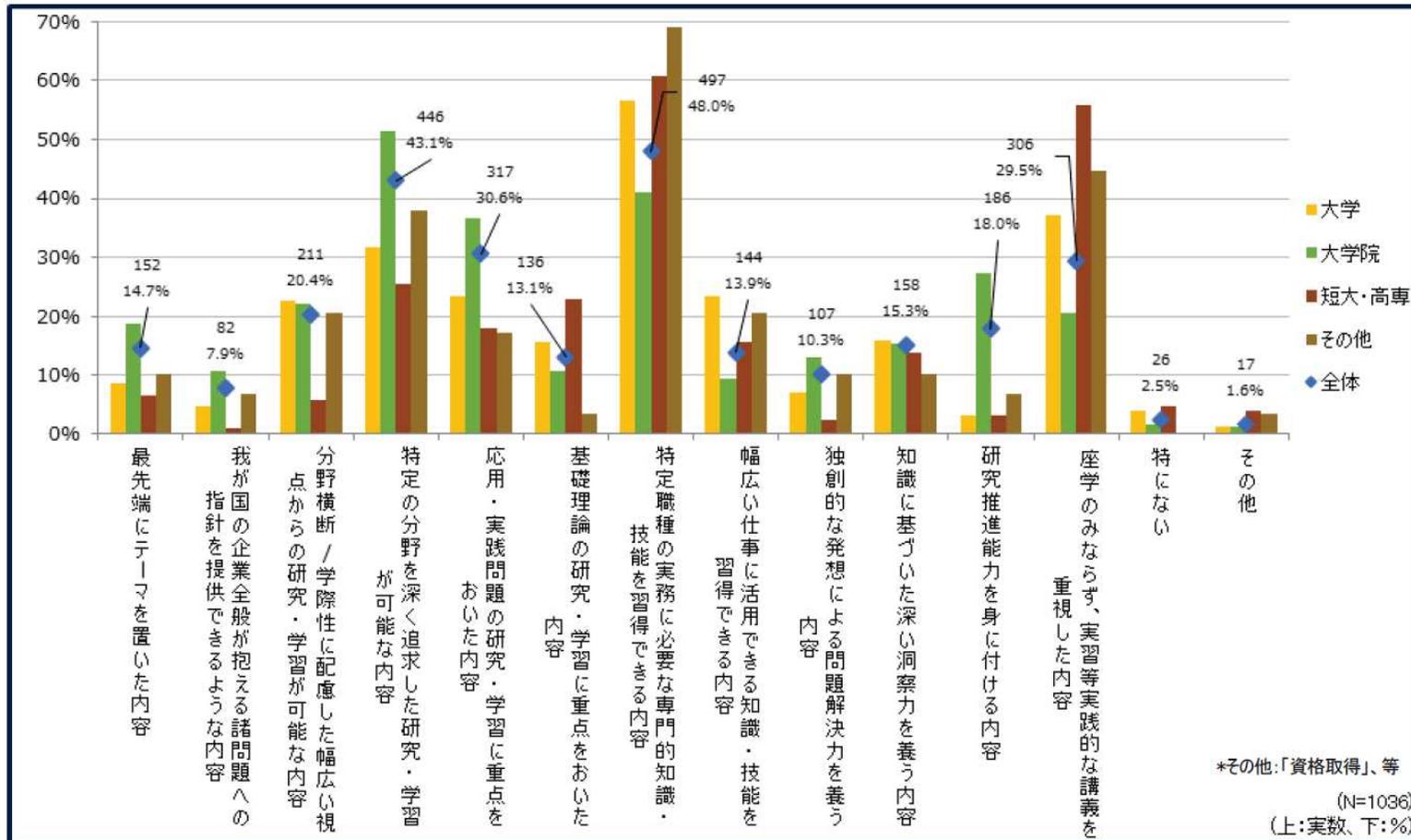
出典：社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究
(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省：先導的大学改革推進委託事業>)

3. 大学等の認識

大学等における社会人を対象としたプログラムのカリキュラム内容

○社会人を対象としたプログラムのカリキュラム内容で重視している点としては、「特定職種の実務に必要な専門的知識・技能を習得できる内容」、「特定分野を深く追求した研究・学習が可能な内容」の割合が高い。

【主に社会人を対象としたプログラムのカリキュラム内容で重視している点(3つまで選択)】



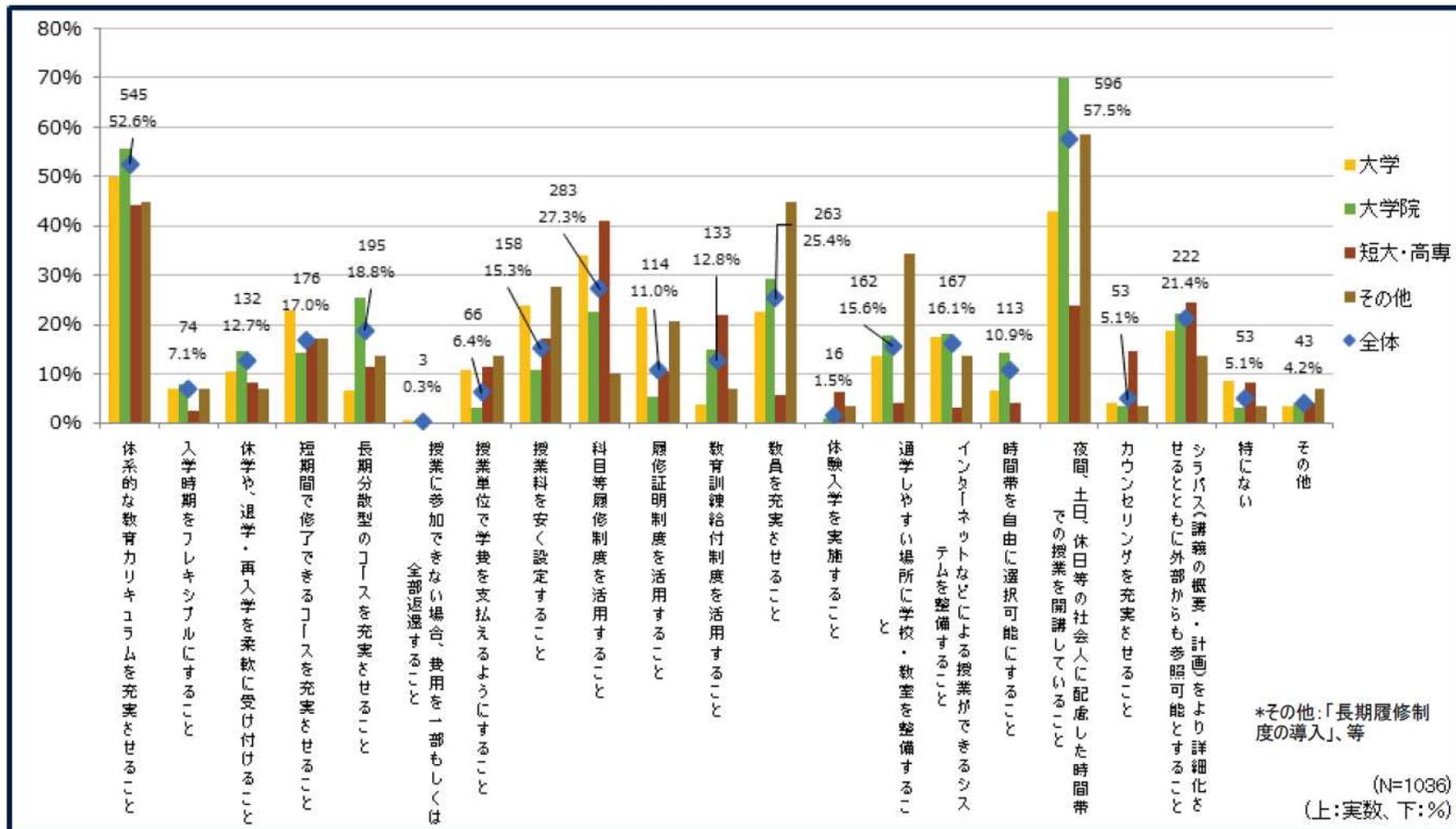
出典: 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究

(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)

大学等における社会人の学び直しを促進するために重視している教育環境

○社会人の学び直しを促進するために重視している教育環境としては、「夜間、土日、休日等の社会人に配慮した時間帯での授業を開講していること」や「体系的な教育カリキュラムを充実させること」をあげる割合が高いが、学校種において割合が異なる。

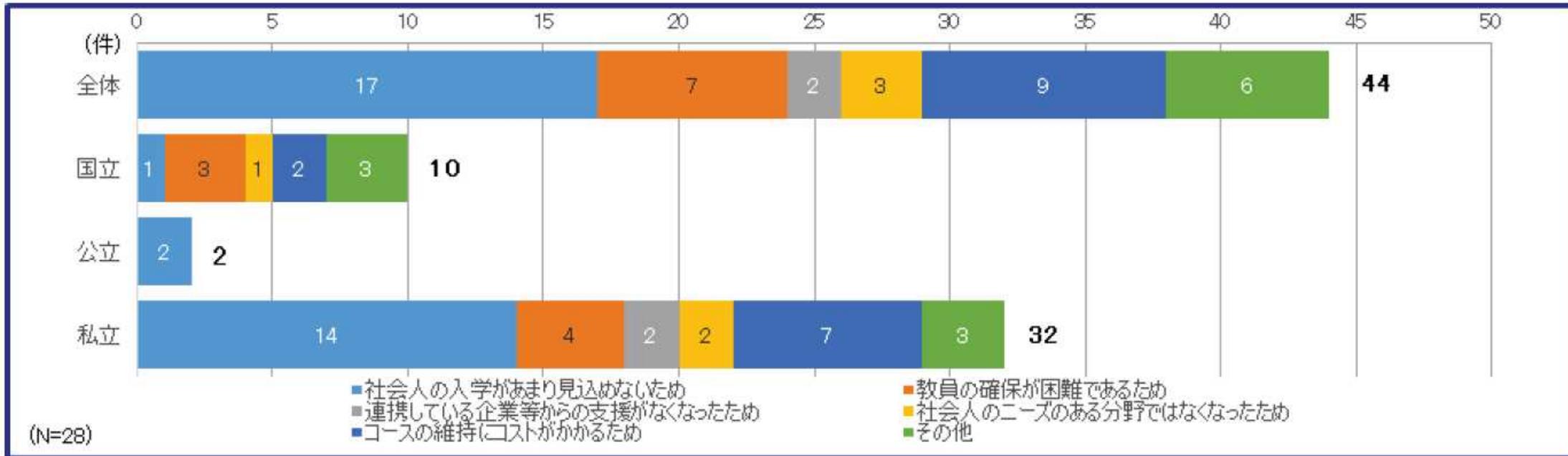
【社会人の学び直しを促進するために重視している教育環境(5つまで選択)】



大学等における社会人を対象としたプログラムの縮小理由

○主に社会人を対象としたプログラムを提供している大学等のうち、「取組を縮小させる」と回答した大学等の理由としては、「社会人の入学があまり見込めないため」との回答が最も多く、「コースの維持にコストがかかるため」「教員の確保が困難であるため」がこれに続いている。

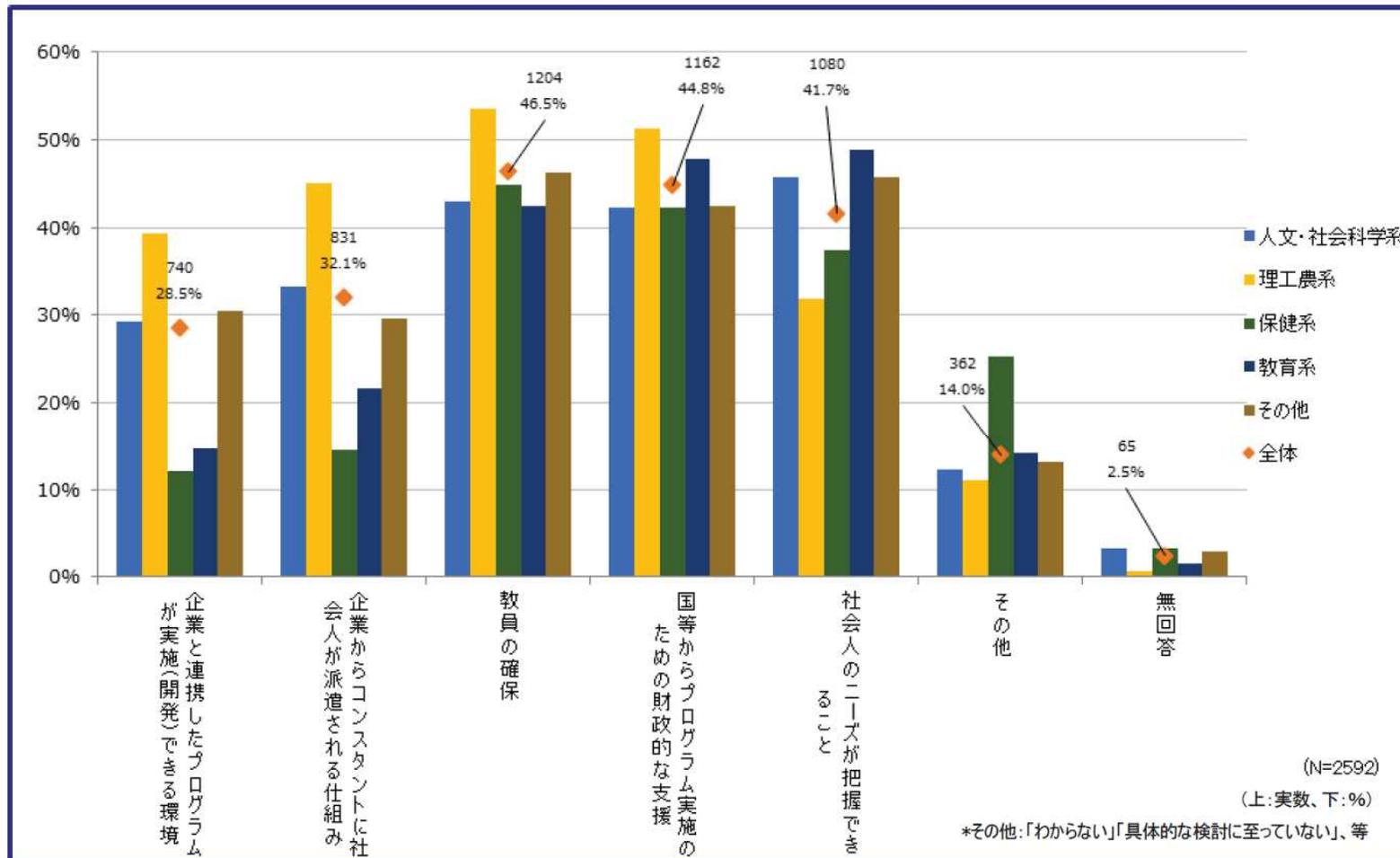
【主に社会人を対象としたプログラムを提供している大学等のうち、「取組を縮小させる」と回答した大学等の理由(3つまで選択)】



大学等における社会人を対象としたプログラムを提供するための条件

- 社会人を対象としたプログラムを提供していない学部等におけるプログラムを提供するための条件としては、「教員の確保」「国等からプログラム実施のための財政的支援」「社会人のニーズが把握できること」の割合が高い。
- 理工農系では、「企業と連携したプログラムが実施できる環境」、「企業からコンスタントに社会人が派遣される仕組み」を条件とする割合も高い。

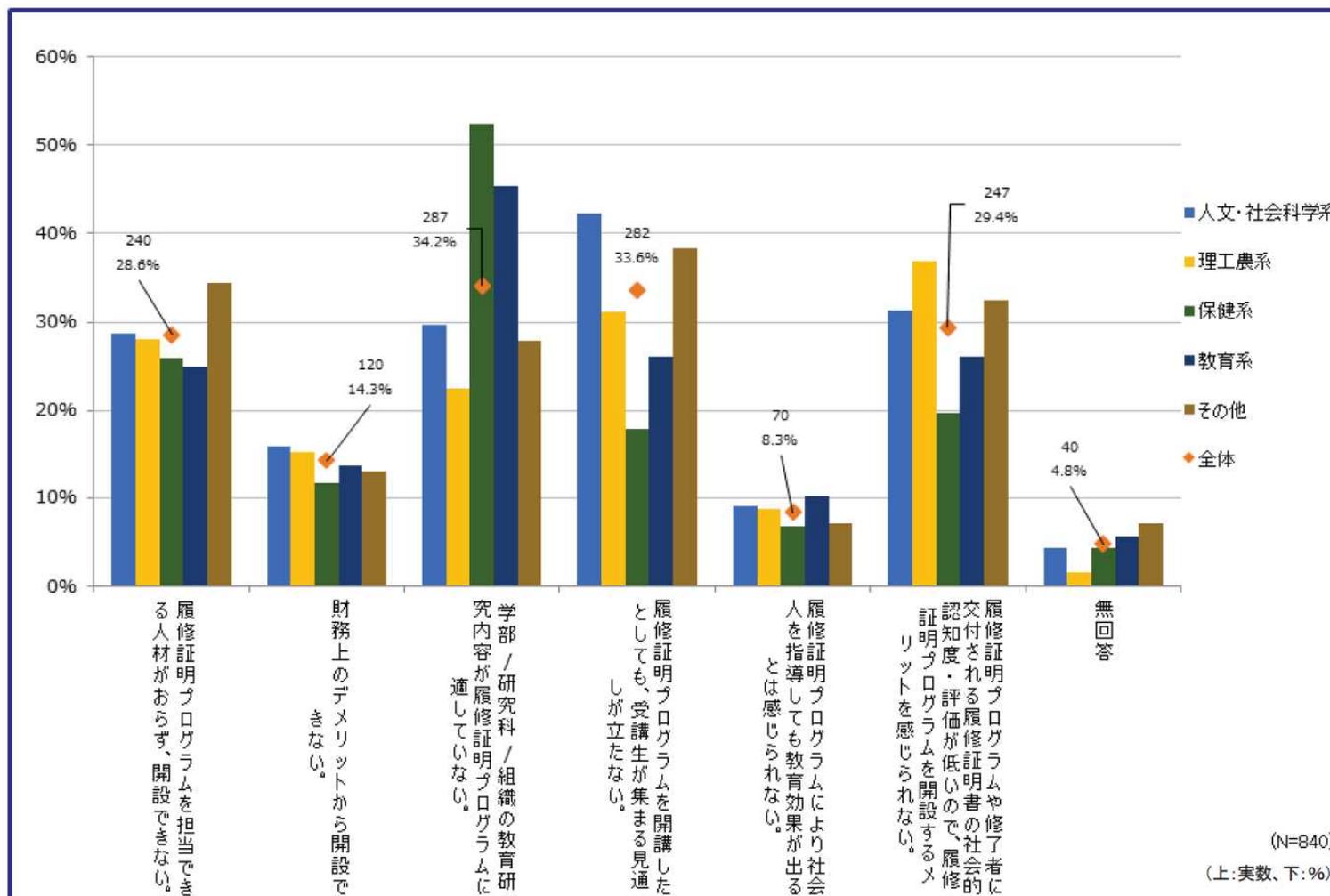
【主に社会人を対象としたプログラムを提供していない学部等におけるプログラムを提供するための条件(3つまで選択)】



履修証明制度を活用したプログラム開設に参加していない理由

○履修証明プログラムの開設に参加していないと回答した学部等の理由としては、「学部等の教育研究内容が履修証明プログラムに適していない」、「受講生が集まる見通しが立たない」、「履修証明プログラムや修了者に交付される履修書の社会的認知度・評価が低いので、メリットを感じない」などの理由が高かった。

【履修証明プログラムの開設に学部・研究科・組織が参加していない理由(あてはまるものをすべて選択)】



出典: 社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究
(平成27年度イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社<文部科学省:先導的大学改革推進委託事業>)

履修証明制度等の改善すべき点

○現在の履修証明制度において改善すべき点として、「国の周知により、履修証明プログラム等の社会的認知度・評価が高められるべき」、「企業等において履修証明プログラムを修了した者の処遇が改善されるべき」が高い割合であった。

【現在の履修証明プログラム制度において改善すべき点(あてはまるものをすべて選択)】

